



NIPPON BEARING

2月22日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【聖火リレーには 宇宙遊泳や 海中散歩があった】

距離やルートなど、大会毎に様々な趣向が凝らされる聖火リレー。

一般の参加者を募ることも多くあり、オリンピックを盛り上げる一大イベントにもなっています。現在開催中の平昌大会では、開催年にちなんで2018kmのルートを7500名もの人々がつなぎ、日本からも元選手など多くの人々が参加しました。

ランナーが聖火トーチを持って走るのが一般的ですが、過去には、宇宙や海中など意外な場所にも運ばれたことがあります。

海中での聖火リレーは、2000年シドニー大会が最初でした。

水中でも聖火が消えない特殊なトーチを使って、優雅に世界遺産の中を海中散歩したそうです。その後、2014年のソチ大会でもバイカル湖での水中聖火リレーが行われました。

史上初の宇宙聖火リレーは、2014年ソチ大会で実現します。

聖火トーチは、2013年11月に打ち上げられた宇宙船ソユーズによって宇宙に運ばれ、ロシア人宇宙飛行士と共に約1時間の宇宙遊泳をした後、地球に帰還。開会式の聖火点灯で使用されました。この時、ソユーズには日本人宇宙飛行士の若田光一さんが搭乗していました。

日本ベアリングの直動ベアリングは、様々な分野の製品に使用されています。

身近なところでは、駅のホームドア。

見えないところで、ドアが確実にスムーズに動けるように支えています。

意外なところでは、揚げ物を作るフライヤー。

フライドポテトやから揚げなど、美味しく頂けるのもスムーズな動きのお陰ですね。

その他、ロボットアームや精密工作機器など、様々な工業製品の中で活躍しています。

聖火リレーが宇宙や海中に運ばれたように、日本ベアリングの製品も固定概念に捉われない使用方法を次々と編みだし、活躍の場所を広げています。

直動ベアリングは、その真っ直ぐでスムーズな動きによって、世の中を快適に動かす陰の立役者となっています。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】